

板会  
与匠  
後物  
越打  
刃

# 東京・日本橋で展示即売

## 「鍛冶職人 刃物の世界展」賑う

越後与板打刃物匠会(久住誠一会長)は、東京・中央区日本橋室町の日本橋・ブリッジにいがたで「鍛冶職人 刃物の世界展」を2月6日から8日まで開催した。

日本橋での開催が今年で3回目となる同展示即売の期間中、鉈、鑿、鉞、鉞、鉞



多くの来場者で賑わった「鍛冶職人 刃物の世界展」の会場

(ちょうな)のような伝統的工芸品地域指定品目をはじめ、需要の多い包丁、鏝削り器、小刀など刃物製品を職人と来場者が楽しく語り合いながら、職人自らが開発製造したアイデア刃物製品などの即売を行った。包丁職人で作履刃研製作所の古見誠一氏による包丁

研究や、地元職人が製作した鉈を使った長角材の鉈削り体験コーナーなどを実施し、盛況だった。また、欧州のドイツで需要の高いバイオリン製作に使用する刃物や、料理飾り用水彫刻などで料理人の需要が高い氷鑿を披露し、訴求した。このほか、液晶ディスプレイ

職人の匠会は今後、国際展示会などで刃物の切れ味や、伝統に裏打ちされた技をPRしていく。また、国内では5月16日、17日の両日、東京の上野公園で開かれる「えちご長岡・佐渡広域観光フェア」で、与板鍛冶職人の技を披露する。

レイ大画面では、地元与板職人の伝統による刃付け鍛造技術によって刃物製品が作られるまでの過程を放映し、PRした。

展示会の会期中に会場を訪れた来場者は、ウィークデーでは通勤客や一般家庭の主婦が多く、週末の土曜・日曜では東京、千葉、埼玉や神奈川の小売店・卸問屋の関係者が目立った。また、雑誌社スタッフも訪れ、会場は賑わっていた。第一線で活躍する打刃物